

広域紋別病院改革プラン

点検・評価報告書

(平成 29 年度)

平成 30 年 12 月

広域紋別病院企業団

1 はじめに

広域紋別病院は、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保のため重要な役割を果たしていますが、毎年度、収支不足等のため多額の基金繰入を行っており、将来的には大変厳しい経営状況になることが見込まれます。

このような状況のなか、平成27年3月、国は「新公立病院改革ガイドライン」を示し、公立病院対し、都道府県が策定する「地域医療構想」と整合性を図りながら、「新公立病院改革プラン」を策定すること求めている。企業団においても「広域紋別病院改革プラン」（以下「改革プラン」という。）を策定し、平成29年度から平成32年度までの4年間で、段階的に経営改善に取り組む内容となっております。

今回、平成29年度の決算を受けて改革プランの点検と自己評価を行ったことからその結果について公表します。

2 改革プランの実現に向けた平成29年度の取組

(1) 地域包括ケアシステムの構築に向けて

急性期治療を経過し、病状が安定した患者に対し、在宅や介護施設への復帰に向けた医療や支援を行う地域包括ケア病床を、平成29年6月から、10床から20床に増床し、それに伴い、理学療法士を4名から6名に増員しました。平成29年度の地域包括ケア病床の延患者数は3,032名（前年比658名増）、収益は81,456千円（前年比15,639千円増）となりました。また、増員した理学療法士の人件費のうち、1名分の2分の1につきましては、北海道から平成29年度病床機能分化・連携促進基盤整備事業に係る補助金の交付を受けました。

(2) 一般会計における経費負担の考え方

救急・周産期・小児・精神医療など採算性を求めることが困難な部門の経費に対する繰入れについては、平成30年1月に紋別市と協議し、交付税措置額以外の部分についても平成30年度から紋別市一般会計予算で計上することになりました。

また、企業団の赤字縮小に向けた取組としては、医薬品・医薬材料の適正化交渉（値下げ）、各種手数料・委託料の値引き交渉、適性に診療報酬を請求するための業務改善などを行っています。29年度は、すぐに改善可能なものから着手し、改善金額は少額でしたが、30年度については、大型医療機器保守の値引き交渉や、公告しても1社のみ参加だった施設維持や給食などの委託業務について複数の参加を図ったことから、大幅な赤字削減を見込んでおります。

(3) 医療機能等指標に係る数値目標

	28年度	29年度						30年度
	実績 a	計画 b	実績 c	前年差 c - a	計画差 c - b	計画 達成率	評価	計画
時間外救急患者数(人)	1,054	1,169	1,138	84	△31	97.3	B	1,194
手術件数(件)	255	310	299	44	△11	96.5	B	320
紹介率(%)	24.5	13.8	31.8	7.3	30.5	230.4	A	13.9
逆紹介率(%)	6.2	4.6	8.6	2.4	4.0	187.0	A	4.7
リハビリ件数(件)	8,979	7,730	11,571	2,592	3,841	149.7	A	7,830
分娩件数(件)	32	40	30	△2	△10	75	C	40
人工透析施術件数(件)	7,407	7,620	8,314	907	694	109.1	A	7,670
健康診断受診者数(人)	2,618	2,800	2,332	△286	△468	83.3	C	2,850

【評価の方法】

- A：計画を上回った（達成率100%を超える）
 B：概ね計画どおり（達成率90%を超えて100%以下）
 C：計画を下回った（達成率90%以下）

(4) 住民の理解

住民の医療・病院への正しい理解、健康増進を図り、構成市町村及び国民健康保険病院との連携・協力を目的に、企業団と構成市町村との共催で公開講座を開催しました。

①講演内容・講師

ア「整形外科的 PPK 作戦～老後を 100 倍楽しむ方法～」

柳沢 勇一郎 診療部長

イ「皮膚・排泄ケア認定看護師のおしごと～いつまでも健やかな皮膚を守るために～」

川原田 知恵 主任看護師

ウ「保健医療連携室の役割」

金子 知 保健医療連携室主査

②日時・場所

- ・平成 29 年 11 月 9 日 滝上町多目的活性化センター
- ・平成 29 年 11 月 22 日 紋別市文化会館多目的ホール
- ・平成 29 年 12 月 7 日 興部町福祉保健総合センター
- ・平成 29 年 12 月 19 日 雄武町民センター

3 経営指標に係る数値目標

(1) 収支改善に係るもの

① 経常収支比率 ～ 経常収益／経常費用、高い方が望ましい

	28年度 実績 a	29年度						30年度 計画
		計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	
経常収支比率 (%)	100.2	100.1	100.0	△ 0.2	△ 0.1	99.9	B	99.1

医業外収益の基金収入補助金の繰入により、税込で病院事業収支の均衡を図っていることから、概ね計画どおりとなった。

② 医業収支比率 ～ 医業収益／医業費用、高い方が望ましい

	28年度 実績 a	29年度						30年度 計画
		計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	
医業収支比率 (%)	61.9	61.2	62.2	0.3	1.0	101.6	A	66.2

入院収益・外来収益が増加したことで前年度よりも比率は高くなっており、計画値も達成した。

③ 修正医業収支比率 ～

(医業収益－他会計繰入金) / {医業費用－(減価償却費＋過去分退職給付費)}、
高い方が望ましい

	28年度 実績 a	29年度						30年度 計画
		計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	
修正医業収支比率 (%)	71.7	70.8	70.8	△ 0.9	0.0	100.0	A	75.8

退職金支給額が増加したことで前年度よりも比率は低くなったが、計画値は達成した。

(2) 経費削減に係るもの

① 職員給与費対医業収益比率 ～ 職員給与費／医業収益、低い方が望ましい

	28年度 実績 a	29年度						30年度 計画
		計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	
職員給与費対医業 収益比率 (%)	78.0	80.7	82.6	4.6	1.9	97.7	B	76.3

職員数の増加により職員給与費が増加したことから、前年度よりも比率は高くなったが、概ね計画どおりとなった。給与費の硬直性から医業収益の増収が求められる。

② 材料費対医業収益比率 ～ 材料費／医業収益、低い方が望ましい

	28年度 実績 a	29年度						30年度 計画
		計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	
材料費対医業収益 比率 (%)	26.9	25.4	23.3	△ 3.6	△ 2.1	109.0	A	24.6

呼吸器内科の高額医薬品が減少したことで、前年度よりも比率は低くなっており、計画値も達成した。

(3) 収入確保に係るもの

① 1日平均入院患者数

	28年度	29年度						30年度
	実績 a	計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	計画
1日平均入院患者数(人)	64.7	73.6	67.3	2.6	△ 6.3	91.4	B	88.3

小児科や整形外科などで患者数が増加し、前年度よりも1日平均患者数は増加しており、概ね計画どおりとなった。

② 1日平均外来患者数

	28年度	29年度						30年度
	実績 a	計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	計画
1日平均外来患者数(人)	351.2	359.7	356.2	5.0	△ 3.5	99.0	B	369.8

整形外科や人工透析などで患者数が増加し、前年度よりも1日平均患者数は増加しており、概ね計画どおりとなった。

(4) 経営の安定性に係るもの

① 医師数 ～ 常勤医師年度末職員数、企業長除く

	28年度	29年度						30年度
	実績 a	計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	計画
医師数(人)	14	16	16	2	0	100.0	A	18

消化器内科及び小児科の医師数が前年度より増加しており、計画値も達成した。

② 看護職員数 ～ 常勤看護師、臨時看護師、派遣看護師、看護助手及び療養介助員の年度末職員数

	28年度	29年度						30年度
	実績 a	計画 b	実績 c	前年差 c-a	計画差 c-b	計画 達成率	評価	計画
看護職員数(人)	108	111	110	2	△ 1	99.1	B	116

常勤看護師数が前年度より増加しており、概ね計画どおりとなった。

【評価の方法】

- A：計画を上回った（達成率100%を超える）
- B：概ね計画どおり（達成率90%を超えて100%以下）
- C：計画を下回った（達成率90%以下）

4 収支計画

(1) 収益的収支

(単位：百万円、%)

区分	年度	28年度 実績 ①	29年度				30年度 計画		
			計画 ②	実績 ③	前年差 ③-①	計画差 ③-②		計画 達成率	
収 入	1. 医業収益 a	2,030	2,067	2,095	65	28	101.3	2,325	
	(1) 料金収入	1,903	1,945	1,966	63	21	101.1	2,200	
	入院収益	889	968	927	38	△ 41	95.8	1,166	
	外来収益	1,014	977	1,039	25	62	106.3	1,034	
	(2) その他	127	122	129	2	7	105.4	125	
	うち他会計負担金	74	74	74	0	0	99.9	74	
	2. 医業外収益	1,378	1,438	1,392	14	△ 46	96.8	1,293	
	(1) 他会計負担金	89	87	89	0	2	102.3	132	
	(2) 他会計補助金	1,013	1,077	1,025	12	△ 52	95.2	881	
	(3) 国(道)補助金	4	4	6	2	2	141.2	4	
	(4) 長期前受金戻入	246	246	247	1	1	100.3	253	
	(5) その他	26	24	25	△ 1	1	103.9	23	
	経常収益 (A)	3,408	3,505	3,487	79	△ 18	99.5	3,618	
	支 出	1. 医業費用 b	3,278	3,377	3,369	91	△ 8	100.2	3,514
(1) 職員給与費 c		1,583	1,668	1,731	148	63	96.2	1,774	
(2) 材料費		547	525	488	△ 59	△ 37	106.9	571	
(3) 経費		629	666	633	4	△ 33	105.0	655	
(4) 減価償却費		507	505	505	△ 2	0	100.1	502	
(5) その他		13	13	12	△ 1	△ 1	108.0	12	
2. 医業外費用		122	126	119	△ 3	△ 7	105.6	137	
(1) 支払利息		4	4	4	0	0	101.6	4	
(2) その他		118	122	115	△ 3	△ 8	106.1	133	
経常費用 (B)		3,400	3,503	3,488	88	△ 15	100.4	3,651	
経常損益 (A)-(B) (C)		8	2	△ 1	△ 9	△ 3	-	△ 33	
特別 損益		1. 特別利益 (D)	71	18	17	△ 54	△ 1	95.5	18
		うち基金収入補助金	0	0	0	0	0	-	0
		2. 特別損失 (E)	80	21	17	△ 63	△ 4	116.8	22
	特別損益 (D)-(E) (F)	△ 9	△ 3	0	9	3	200.0	△ 4	
純損益 (C)+(F)	△ 1	△ 1	△ 1	0	0	100.0	△ 37		
基金収入補助金を除いた純損益	△ 908	△ 981	△ 925	△ 17	56	105.7	△ 828		
累積欠損金 (G)	0	0	0	0	0	-	0		
不 良 債 務	流動資産 (イ)	780	847	882	102	35	-	861	
	流動負債 (イ)	505	524	608	103	84	-	506	
	うち一時借入金	0	0	0	0	0	-	0	
	翌年度繰越財源 (ウ)	0	0	0	0	0	-	0	
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (エ)	0	0	0	0	0	-	0	
	差引	-	-	-	-	-	-	-	
	不良債務 {(イ)-(エ)}-{(イ)-(ウ)} (オ)	-	-	-	-	-	-	-	
経常収支比率	$\frac{(A)}{(B)}$	100.2	100.1	100.0	△ 0.2	△ 0.1	99.9	99.1	
不良債務比率	$\frac{(オ)}{a}$	-	-	-	-	-	-	-	
医業収支比率	$\frac{a}{b}$	61.9	61.2	62.2	0.3	1.0	101.6	66.2	
職員給与費 対医業収益比率	$\frac{c}{a}$	78.0	80.7	82.6	4.7	1.9	102.4	76.3	
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額 (H)	(H)	-	-	-	-	-	-	-	
資金不足比率	$\frac{(H)}{a}$	-	-	-	-	-	-	-	
病床利用率		43.7	49.6	45.5	1.8	△ 4.1	91.7	59.7	

(2) 資本的収支

年度 区分	28年度 実績 ①	29年度					30年度 計画	
		計画 ②	実績 ③	前年差 ③-①	計画差 ③-②	計画 達成率		
収入	1. 企業債	38	24	23	△ 15	△ 1	98.3	88
	2. 他会計出資金	0	0	0	0	0	-	0
	3. 他会計負担金	78	71	72	△ 6	1	100.8	128
	4. 他会計借入金	11	6	7	△ 4	1	116.7	26
	5. 他会計補助金	0	0	0	0	0	-	0
	6. 国(道)補助金	1	0	0	△ 1	0	-	0
	7. 工事負担金	0	0	0	0	0	-	0
	8. 固定資産売却代金	50	0	0	△ 50	0	-	0
	9. その他	0	0	2	2	2	-	0
	収入計 (a)	178	101	104	△ 74	3	103.4	242
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0	-	0
	前年度同意等債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	-	0
純計(a) - {(b) + (c)} (A)	178	101	104	△ 74	3	103.4	242	
支出	1. 建設改良費	78	57	53	△ 25	△ 4	108.0	175
	2. 企業債償還金	226	225	225	△ 1	0	100.0	226
	3. 他会計長期借入金返還金	2	2	2	0	0	100.0	97
	4. その他	19	18	17	△ 2	△ 1	106.0	16
	支出計 (B)	325	302	297	△ 28	△ 5	101.9	514
差引不足額 (B) - (A) (C)	147	201	192	45	△ 9	104.5	272	
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	127	177	169	42	△ 8	-	239
	2. 利益剰余金処分額	0	0	0	0	0	-	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0	0	-	0
	4. その他	20	24	23	3	△ 1	-	33
計 (D)	147	201	192	45	△ 9	-	272	
補てん財源不足額 (C) - (D) (E)	0	0	0	0	0	-	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)	0	0	0	0	0	-	0	
実質財源不足額 (E) - (F)	0	0	0	0	0	-	0	

(3) 一般会計からの繰入金の見通し

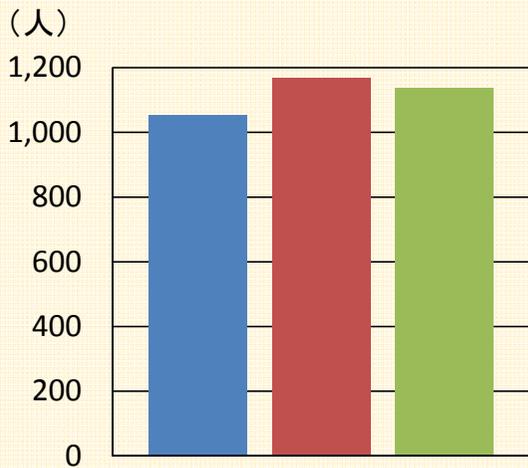
	28年度 実績 ①	29年度					30年度 計画
		計画 ②	実績 ③	前年差 ③-①	計画差 ③-②	計画 達成率	
収益的収支	(23)	(3)	(20)	(△ 3)	(17)	(679.8)	(3)
	269	258	264	△ 5	6	102.3	296
資本的収支	(11)	(21)	(7)	(△ 4)	(△ 14)	(32.7)	(87)
	89	77	79	△ 10	2	102.0	154
合計	(34)	(24)	(27)	(△ 7)	(3)	(112.3)	(90)
	358	335	343	△ 15	8	102.2	450

※ () 内は基準外繰入金額

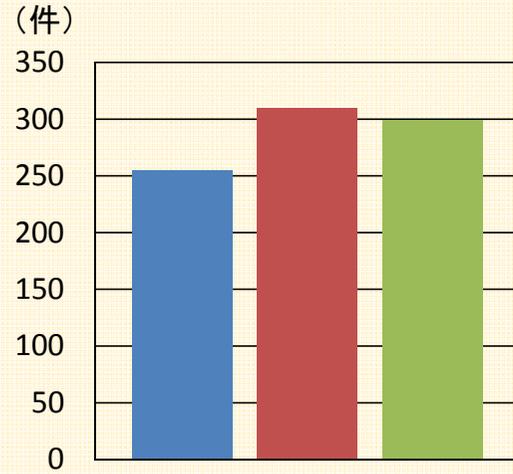
(4) 基金からの繰入金の見通し

	28年度 実績 ①	29年度					30年度 計画
		計画 ②	実績 ③	前年差 ③-①	計画差 ③-②	計画 達成率	
収益的収支	907	980	924	17	△ 56	105.7	791
資本的収支	0	0	0	0	0	-	0
合計	907	980	924	17	△ 56	105.7	791

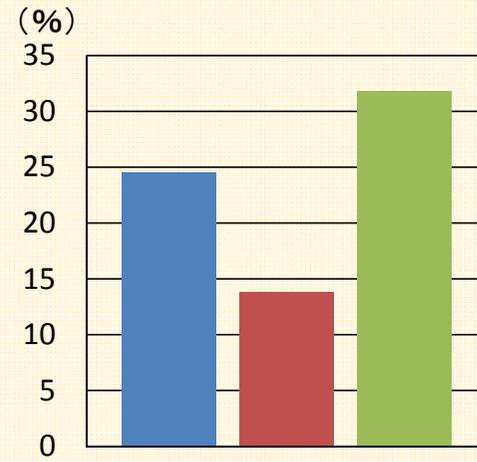
医療機能等指標に係る数値目標



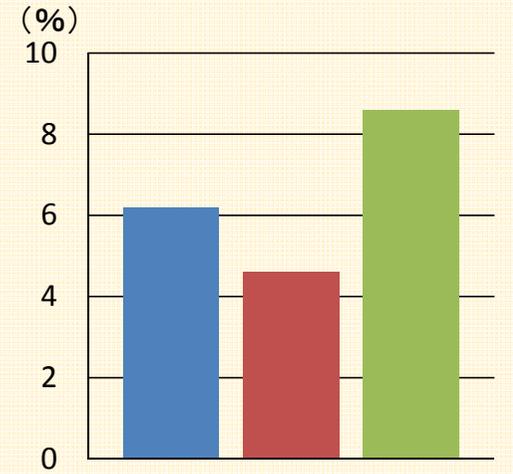
時間外救急患者数



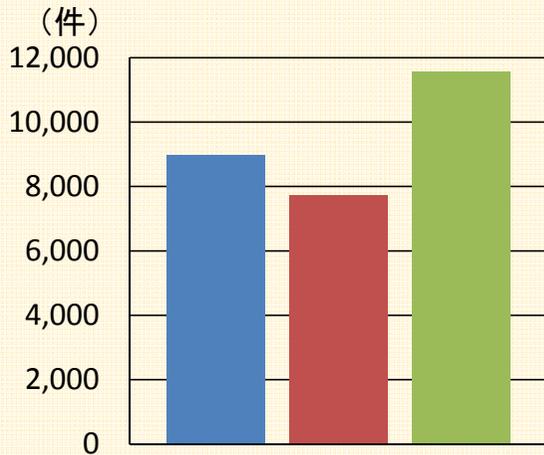
手術件数



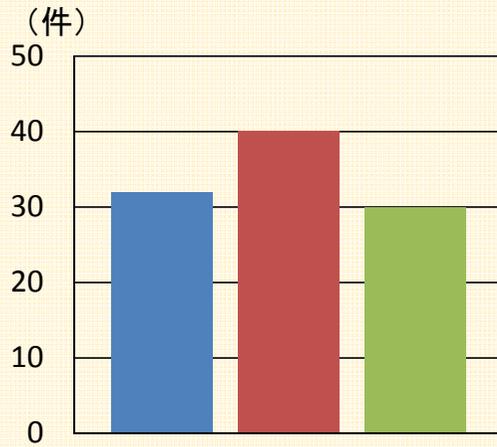
紹介率



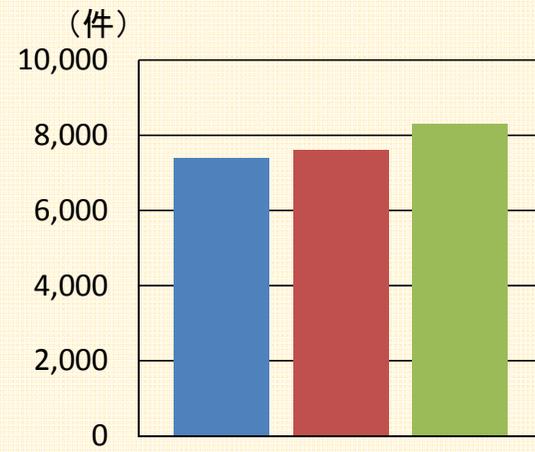
逆紹介率



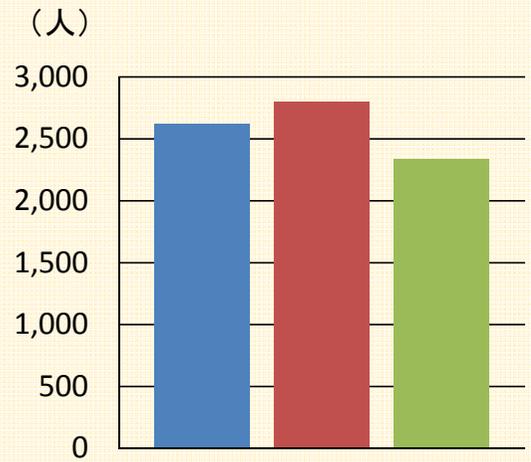
リハビリ件数



分娩件数



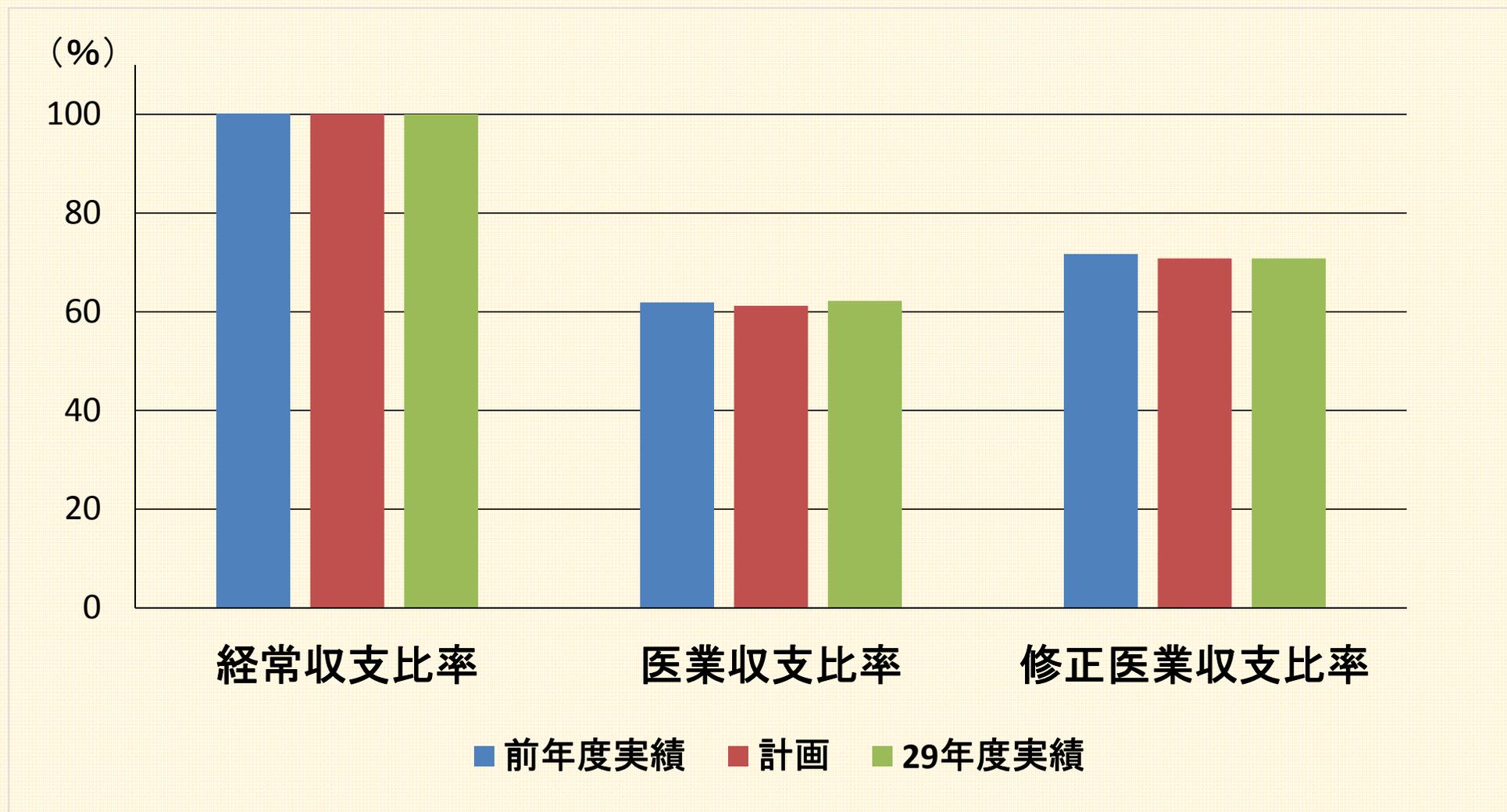
人工透析施術件数



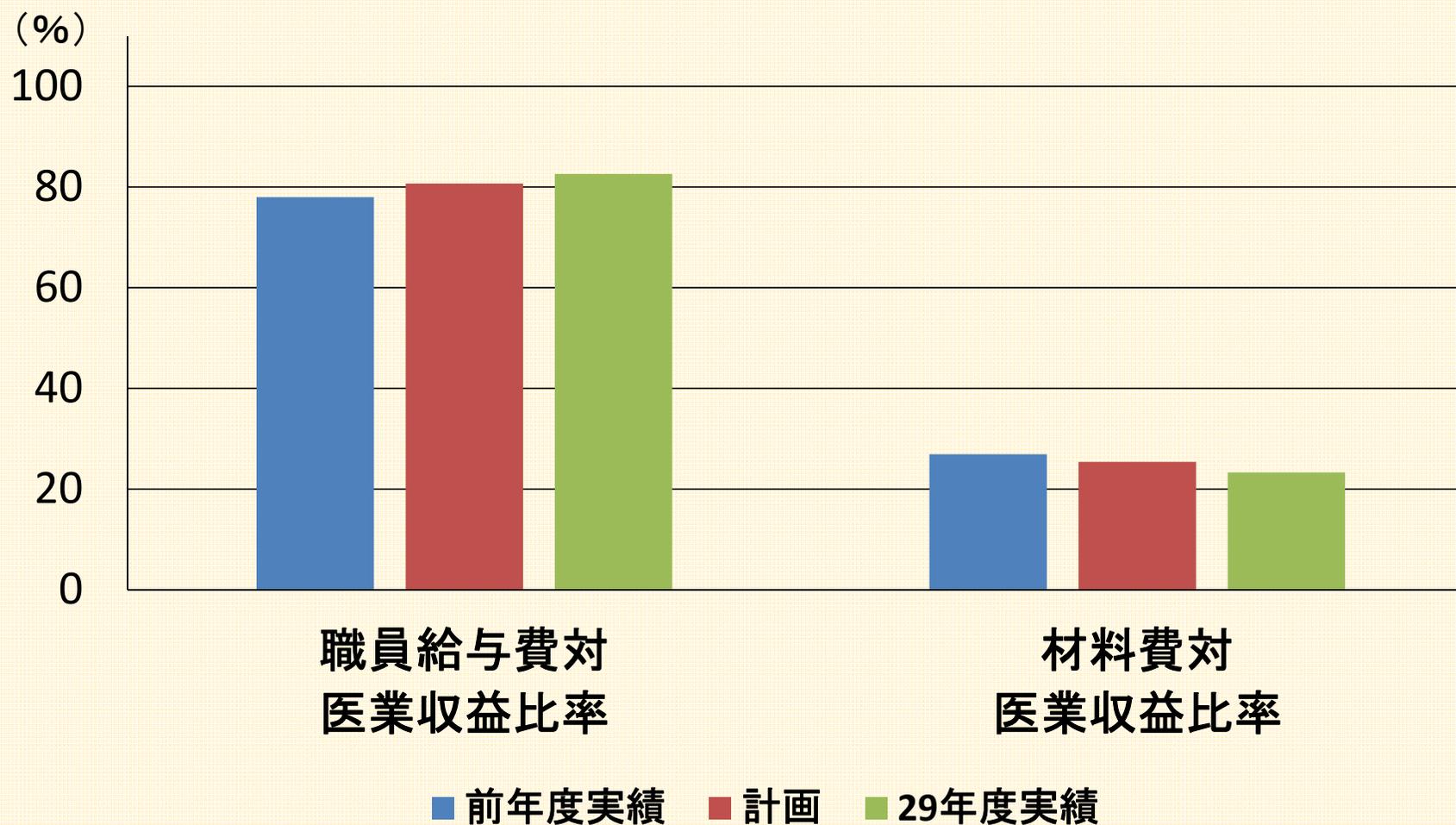
健康診断受診者数

■ 前年度実績 ■ 計画 ■ 29年度実績

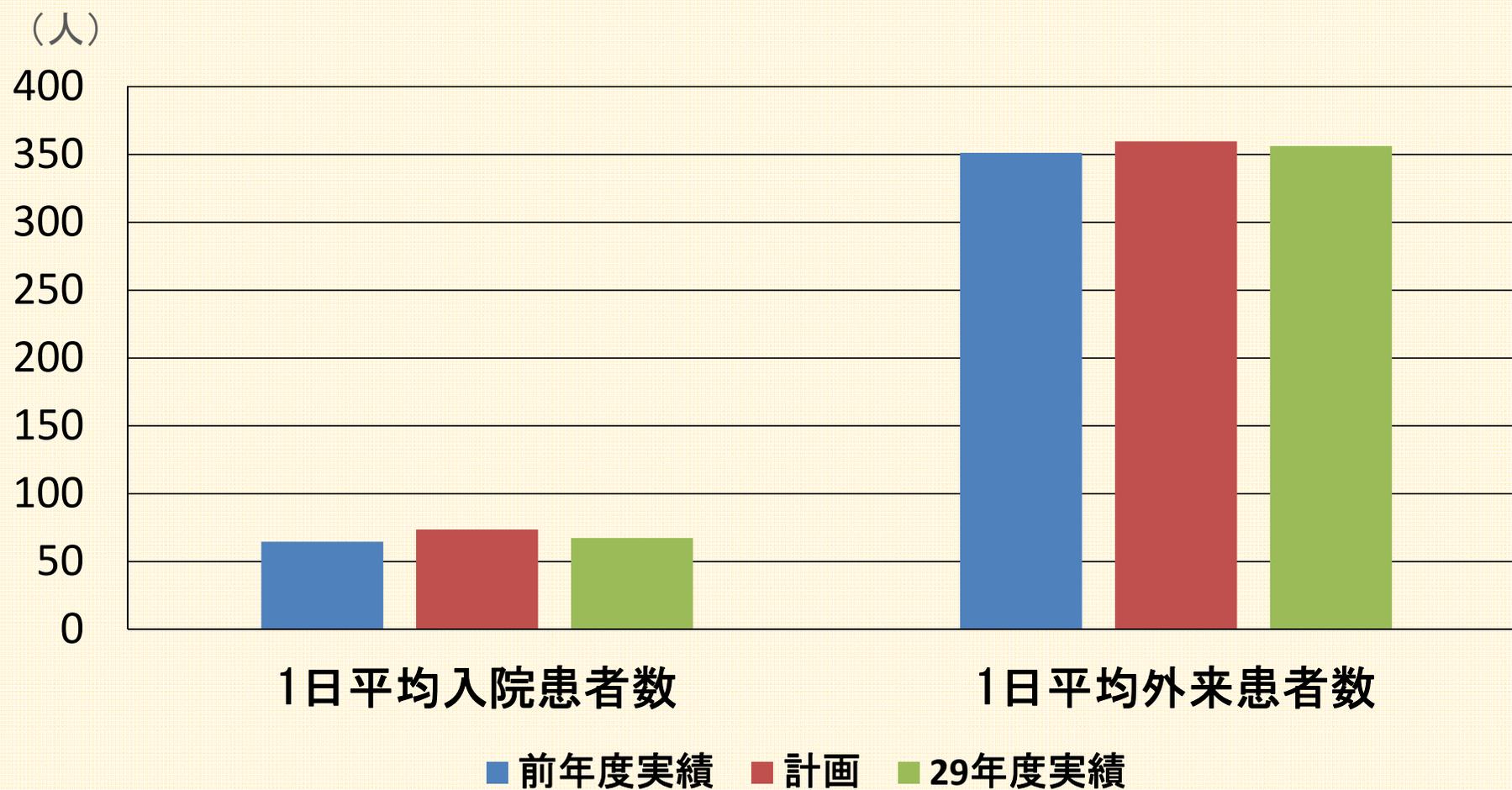
収支改善に係るもの



経費削減に係るもの

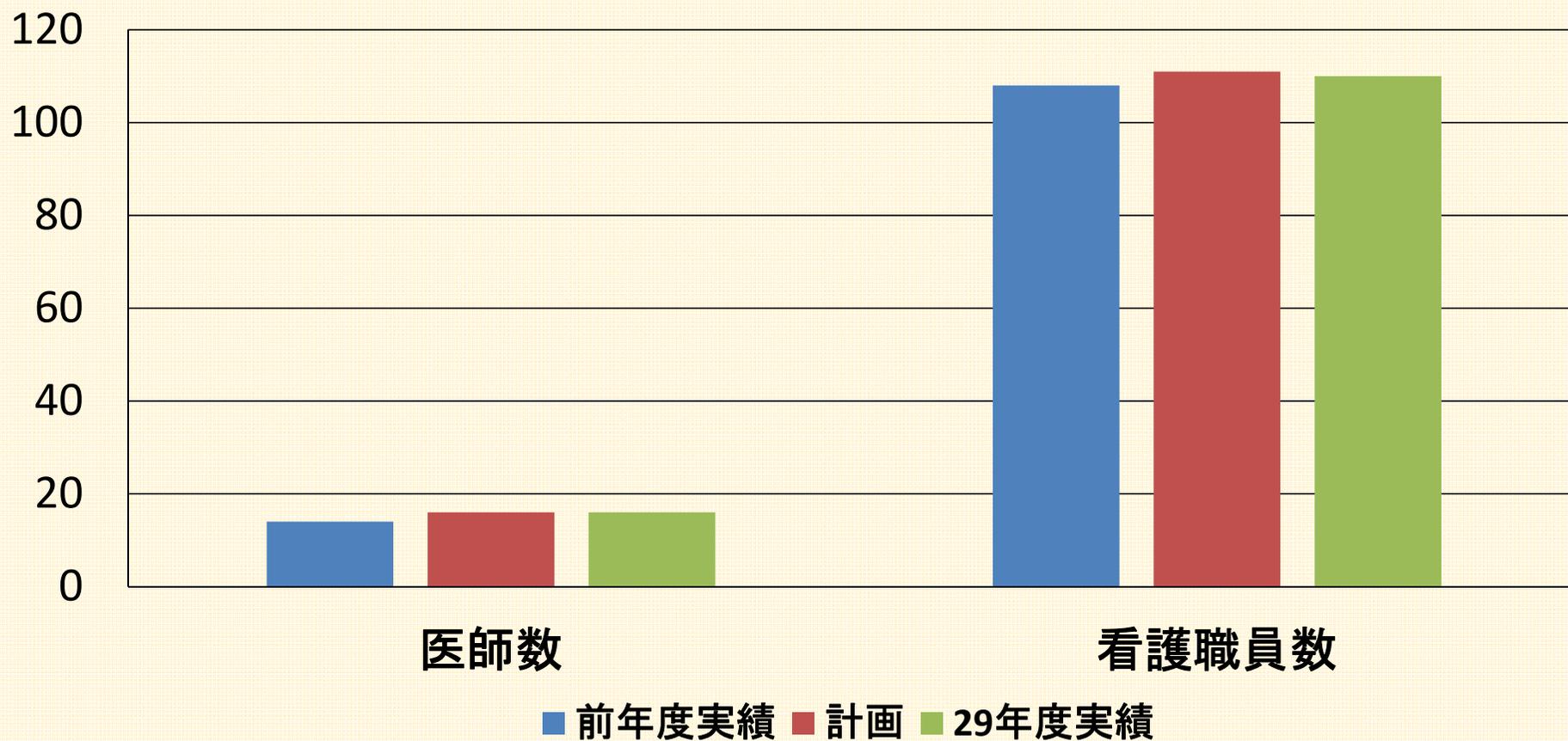


収入確保に係るもの



経営の安定に係るもの

(人)



収支計画

